Asian Ethnology に関する報告

B・ドーマン

Benjamin Dorman

本報告の目的は、*Asian Ethnology* 発足の2008年から2011年までの、3年間の進行と発展を明確にすることに加えて、*Asian Ethnology* の将来の発展に向けた課題を論じることである。

Asian Ethnology の人的ネットワークの拡大

Asian Ethnology の今後の発展を進めるように、ジャーナルに貢献できる学外と学内の人的ネットワークを拡大する必要がある。*Asian Ethnology* というタイトルの発足後、国際編集委員会のメンバーが一人増加した。光栄なことに、米国のバクネル大学の准教授カラリン・デイヴィス先生 (Coralynn V. Davis; 人類学、ジェンダー学) が、2012年まで委員を務めることになった。なお、ジャーナルのポリシーとして、国際編集委員会員の任期は5年間となっているが、その後の更新も可能である。学内の人的ネットワークは、ロバート・クロッカー先生（Robert Croker; 総合政策学部教授）、ロジェ・ヴァンジラ・ムンシ先生（Roger Vanzila Munsi; 外国語学部講師・人類学研究所第二種研究員）とアンドレアス・リースラント先生（Andreas Riessland; 外国語学部准教授・人類学研究所第二種研究員）である。今後とも、国際と国内のネットワーク、本学のネットワークを拡大する予定である。

国際編集委員会議

米国で行われているアジア学学会年次学術大会において、2009年から国際編集委員会議を行ってきた（2009年はシカゴ、2010年はフィラデルフィア、2011年はホノルル）。ジャーナルの方向性、査読の進め方、発音区別符号の基準などの話題を討論している。貴重な会議なので、これからも、毎年続ける予定である。

特集号

Asian Ethnology は随時、テーマに基づいた特集号を組んで出版している。アメリカ自然史博物館に所属しているロレル・ケンダル先生（Laurel Kendall）特別編集長の元で、「ベトナムにおける儀礼」をテーマとして、一つの特集号を2008年に出版した。次の2009年に、イギリスのランカスター大学に所属している川並宏子先生 (Kawanami Hiroko) とフランスにある Centre Asie du Sud-Est (東南アジア学術センター) のベネディクト・ブラク・ドゥラ・ペリエール先生 (Bénédicte Brac de la Perrière) の元で、「ビルマにおける宗教のあり方」をテーマとし

てもう一つ特集号を出版した。

今後の計画だが、2011 年 70/2 号に、アイオワ大学のスコット・シュネル先生を編集長として、「儀礼と環境」に関する特集セクションを出版する予定である。なお、シンガポール国立大学のトマス・デュボワ先生（Thomas Dubois）を編集長として、「現代における中国の民俗学」をテーマとする特集号も準備しているところである（出版 2012 年予定）。

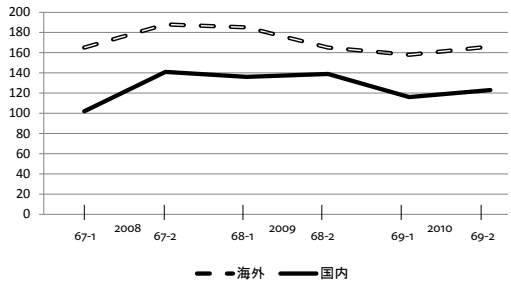
アクセプタンス・レート（論文承諾率）

Asian Ethnology は、ダブルブラインドの査読プロセスを使い、アクセプタンスレート（論文承諾率）は現在 25％であり、比較的高い水準である。今後もこの水準維持が見込まれる。

紙媒体購読数の変動とオンラインデータベース

3 年間で、紙媒体購読数の変動は多少あるが、海外の購読数の減少傾向が見られる（図参照）。これは、海外で紙媒体から電子媒体への変化を示すものと考えられる。2008 年から、欧米の多くの学術機関は、コスト削減のため、あるいは図書館の学術誌や学術書の保管場所のため、紙媒体から電子媒体の移行を選択している。海外の多くの大学や教育機関の図書館は、有料のオンラインデータベースを利用し、学術誌を購読している。紙媒体のジャーナルから電子媒体への完全な移行は今後の課題である。2011 年 2 月の、データベース管理会社 Proquest の依頼によると、例年送付していた紙媒体のジャーナルの受け入れの中止が決定し、電子データだけを利用するということである。

アマゾン のキンドル（ブックリーダーデバイス）やアップルの iPad のようなコンピュータは、紙の代替となりうる電子機器である。これらも含めて、同様の新しい電子媒体のデバイスは今後も増え続けていく。ジャーナルにとって、これらの電子機器にいかにデータ発信すべきかが課題である。



ジャーナルの効率化を進めるために

オープンジャーナルシステムを導入する作業をすすめている。このシステムは、学術雑誌をオンラインで管理・出版するためのオープンソース・ソリューションである。OJS は、編集者が操作することにより雑誌の管理・出版をきわめて柔軟に行えるシステムであり、自由にダウンロードして、ローカルの Web サーバにインストールすることができる。

広告

ジャーナル相互の間でジャーナルの広告掲載を行っている（*Anthropos, Moussons, ICTM Yearbook*）。*Asian Ethnology* は、毎年、アジア学学会における学術大会のプログラムにも広告を載せている。

その他の活動

編集責任者（ドーマン）は、*Asian Ethnology* に関する発表を以下の日程で行なってきた（予定も含む）。

2008 年 8 月　オーストラリア国立大学大学院

2009 年 12 月　ソウルの西江大学

2010 年 7 月　上智大学『モニュメンタ・ニッポニカ』に関するワークショップ

2010 年 8 月　オーストラリア国立大学大学院

2011 年 8 月　ヨーロッパ日本学学会（エストニアにて開催予定）

最後に

Asian Folklore Studies から *Asian Ethnology* への移行はスムーズに行われた。国際編集委員会を設立してから、ジャーナルは様々な学者、あるいは学術機関との連携を強化してきた。

べんじゃみん・どーまん
南山宗教文化研究所第一種研究所員